

令和5年度 第2回 国立大学法人北海道大学経営協議会議事要旨

日 時 令和5年9月14日（木）10:00～12:12

場 所 北海道大学 事務局 大会議室

出席者 21名

（学外） 岩永、大槻、河合、小坂、サコ（WEB）、杉江、土屋、藤井、松沢、
三輪、渡辺 各委員

（学内） 寶金、山口、横田、増田、山本、高橋、菅原、行松、梅原、渥美 各委
員

欠席者 1名

（学外） 五十嵐 委員

（オブザーバー）

高橋監事

議 事

議事に先立ち、令和5年度第1回経営協議会の議事要旨について確認があった。

【 議 題 】

1 令和5年度国立大学法人ガバナンス・コードに係る適合状況の報告について

総長から、資料1から3に基づき、令和5年度国立大学法人ガバナンス・コードに係る適合状況について説明があり、審議した結果了承された。

引き続き総長から、今後、役員会の審議を経たうえで本学ホームページに公表する旨発言があった。

（主な意見）

- ・ HU VISION 2030 は第4期中期計画より後に作成された。中期計画の変更が容易ではないことは承知しているが、本来、中期計画はビジョンに基づき作成すべきものである。

- ・部局の中期計画も、大学全体の中期計画に連動するものとして評価されることが望ましい。
- ・ビジョンは大学が組織として目指すものである。執行部が変わっても目指す方向は変わらないと捉えてほしい。

2 北海道大学質保証報告書について

総長から、資料4に基づき、本学の質保証の実施状況を「北海道大学質保証報告書」として公表することについて説明があり、審議した結果了承された。

引き続き総長から、今後、学内会議の審議を経たうえで本学ホームページに公表する旨発言があった。また、軽微な修正については総長に一任願いたい旨発言があり、了承された。

(主な意見)

- ・ワイン産業の振興やサーモン等の養殖への取り組みには、北大の力が非常に大きく、北海道の元気作りにつながっている。今後も北大と連携しながら事業を進めていきたい。
- ・地熱発電所の掘削現場から噴出した蒸気にはヒ素が検出され、風評被害が発生した重大な課題に対して、北大には研究者の紹介など、迅速に動いていただいた。
- ・先住民研究は、北大が他大学との差異化や価値の創造に向けてリーダーシップを発揮できる分野である。今後も研究や啓蒙・広報を進めてほしい。
- ・ダイバーシティ&インクルージョンに関し、推進本部が設置されているので、質保証としても報告できる成果を期待したい。
- ・アンビシャス特別助教制度において、性別の観点だけでなく、研究分野や国籍についても多様な人材を採用できるようにするとされており、日本の課題である若手研究者の育成に大きく貢献すると思う。制度の広報や採用した人材をどう育成していくかという点にも丁寧に取り組むとよい。
- ・質保証やHU VISION 2030は構成員である学生や、社会にも理解してもらうことが大事である。授業の中にちりばめることで、大学の価値を上げていくことにつながる。
- ・原子力工学は様々な形で科学的な評価がなされるべき分野であり、原子力工学に関するオープン教材が、他大学や高専など、多くの方の目に触れる機会

があるのはいいことである。

3 経営協議会学外委員の再任回数・任期について

総長から、資料5に基づき、経営協議会学外委員の再任回数及び任期の変更に
ついて説明があり、審議した結果了承された。

引き続き総長から、規程の改正は1月開催の経営協議会に附議する旨発言が
あった。

【 報告事項 】

1 令和6年度概算要求（財務省要求）について

総長から、資料6及び7に基づき、令和6年度概算要求（財務省要求）につい
て報告があった。

2 「北海道大学 統合報告書 2023」の発行について

総長から、資料8に基づき、「北海道大学統合報告書 2023」を発行した旨報
告があった。

（主な意見）

- ・ 入学者の道内比率の低下については、北海道は魅力的な地域で全国から学生
が集まっているとも言える。入学者選抜におけるバランスについては、様々
な観点から検討いただきたい。
- ・ 社会がこれだけ変化している中で、入試の選抜方法が変わらないとひずみが
生じる。社会の変化をとらえる若い人たちが何を望み、どのように育つのか
という考えを基に検討いただきたい。
- ・ 本報告書は画像が多く見やすい。
- ・ 道内比率の低下は、北海道の産業が衰退し、過疎化が進んでいることが最初
の問題である。単に入試のハードルを下げるのではなく、北大が地域産業に
貢献し、地域の関心を呼ぶことが大切である。
- ・ CDP 気候変動質問書 2022 に回答書を提出したことや、30by30 アライアン
スに参画したことなど、国際的に認知度の高い活動に取り組まれていること
は非常に素晴らしい。
- ・ SDGs の達成は困難ではあるが、達成しなければ未来はない。

- ・入試においては、ポテンシャルを評価し合格させることも重要である。ハーバード大学などはアドミッションオフィスが強く、ペーパーテストで劣ってもやる気がある学生を見出している。

3 平岸住宅跡地の活用方針及び文部科学省への認可申請について

総長から、資料9に基づき、職員宿舎のうち平岸住宅の跡地について、今後の活用方針を定め、貸付に向けた手続きとして文部科学省へ認可申請を行った旨報告があった。

4 北海道大学オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」の設置について

総長から、資料10に基づき、ファカルティハウス「エンレイソウ」を改修し、オープンイノベーションハブ「エンレイソウ」として設置することについて報告があった。

(主な意見)

- ・スタートアップは北大や日本にとって極めて重要なものであるため、積極的に活用していただきたい。具体的には、アントレプレナーシップの教育、スタートアップを支える人材、ベンチャーファンドの資金獲得、大学教員自身のマインドセットの改革が大事になる。
- ・北海道としてもスタートアップ支援を進めているので、北大とも協力していきたい。
- ・単なる学生のたまり場になることがないよう、コンシェルジュの配置や、情報発信など、運営に工夫が必要である。中小企業でも気軽に使うことができるような工夫も必要である。
- ・キャンパスにはエンレイソウ以外にも遠友学舎や北キャンパスの研究施設などがあるので、学外の人を使いやすいように、学内資産の有効活用を検討いただきたい。

【 その他 】

1 令和5年人事院給与勧告について

総長から、資料11に基づき、令和5年人事院給与勧告について説明があった。

引き続き総長から、今後の国の動向を見極めた上で、本学においても、国に準

拠する方向で調整を進めたいと考えており、関連就業規則等の改正にかかる必要な対応については、総長に一任願いたい旨発言があった。

【意見交換】

1 半導体関連拠点について

「半導体関連拠点について」をテーマに、山口理事から資料 12 に基づき説明があった後、種々意見交換が行われた。

(主な意見)

- ・ラピダスの成功には人材、技術、資金、スピードが大事といわれている中で、北大としては人材、半導体関連技術の開発による貢献が必要である。
- ・道内の大学や高専と連携し、オール北海道で対応していくことは素晴らしい。
- ・ラピダスには、1980～90 年代に追随するやり方にならないよう、現在はダイバーシティの観点が必要となってきたこと等、昔とは事情が違うことを認識してほしい。そこで、人材育成に関する新しい方法を北大が示し、新しい半導体産業を作ることを期待する。
- ・ラピダスは北大の人材供給に期待している。北大の学生は就職先がないために道外で就職する傾向にあるが、ラピダスとその周辺に大規模な集積が見込まれる関連企業はその受け皿にもなり得る。
- ・他大学や北海道全体とのネットワーク形成を期待する。
- ・今の半導体技術者は多くが 50 歳以上であり、教育できる人材の確保が難しいことと、学生には半導体の人気がないことが課題だと思われる。
- ・北海道に新たな次世代産業ができることに大きな期待をしている。
- ・研究開発拠点である LSTC（技術研究組合最先端半導体技術センター）に北大が加入したことにより、トップレベルの研究を進められることは、大学として非常に重要なことである。
- ・北海道には半導体の素地がないので、道内にどのような力があるか足下をよく見て、現状把握をしっかりと行うことが重要である。
- ・汎用半導体の量産化をターゲットとしている熊本県と異なり、ラピダスは最先端の半導体を作るため、必要とされる技術のレベルが高い。フロンティアスピリットをもって取り組んでいく必要がある。
- ・北大の役割として、最先端半導体の需要を生み出す仕組みを支えることも考

えるべきである。

- ・次世代半導体プロジェクトの最終的なあるべき姿を定性的に描く必要がある。
画を描けるのは北大しかないと思う。

(以 上)

Summary of the Minutes of the Second FY2023 Meeting of the Administrative Council of National University Corporation Hokkaido University

Date and Time: 10:00 a.m. to 12:12 p.m. on Thursday, September 14, 2023
Place: Large conference room, Administration Bureau
Members in attendance: 21 members
External Council members: Iwanaga, Otsuki, Kawai, Kosaka, Sacko (attended online),
Sugie, Tsuchiya, Fujii, Matsuzawa, Miwa, and Watanabe
Internal Council members: Houkin, Yamaguchi, Yokota, Masuda, Yamamoto, Takahashi,
Sugawara, Yukimatsu, Umehara, and Atsumi
Members absent: 1 member
External Council member: Igarashi

Observers: Auditor Takahashi

Minutes

Prior to the proceedings, the Council confirmed the Summary of the Minutes of the First FY2023 Meeting of the Administrative Council.

Matters to be Resolved:

1. Report on Compliance with the FY2023 National University Corporation Governance Code

The President explained, based on Materials 1 to 3, compliance conditions regarding the FY2023 National University Corporation Governance Code. The Council deliberated and adopted the agenda.

Then, the President explained the University's plan to publish the compliance information on its website after deliberation by the Board of Executives.

Main Opinions:

- HU VISION 2030 was created after the 4th Period Mid-Term Plan. While it is understandable that this Mid-Term Plan cannot easily be changed, technically, all mid-term plans should be created based on this vision.
- The Mid-Term Plans of departments should also be evaluated to ensure they work in conjunction with the Mid-Term Plan of the University.
- This vision represents what the University aims to achieve as an organization and the

hope is that even if the administration changes, the University will continue on the same trajectory.

2. Hokkaido University Quality Assurance Report

The President explained, based on Material 4, that the compliance status with quality assurance would be summarized and released as the "Hokkaido University Quality Assurance Report." The Council deliberated and adopted the agenda.

Then, the President explained the University's plan to publish the report on its website after deliberation by the Board of Executives. In addition, the President asked Council members to leave minor corrections to the President, which the Council approved.

Main Opinions:

- The University has made significant contributions to promoting the wine industry and cultivating salmon and other fish, which has helped to revitalize Hokkaido. It is hoped that these projects will continue to be promoted in cooperation with the University.
- It is appreciated that the University responded quickly, including introducing researchers, to address the serious issue of harmful rumors about arsenic detected in the steam that had sprayed out of the excavation site of the geothermal power plant.
- Indigenous Studies is a field in which Hokkaido University can take leadership, differentiate itself from other universities, and create value. It is hoped that the University will continue to advance research, education, and public outreach in this area.
- Thanks to the establishment of the Office of Diversity, Equity, and Inclusion, it is expected that the University will achieve results that can be reported for quality assurance.
- The Ambitious Special Assistant Professors System is designed to recruit diverse human resources not only in terms of gender but also in terms of research fields and nationality. It is hoped that this will greatly contribute to the development of young researchers, which has been a challenge for Japan. It is also important to carefully focus on publicizing the System and nurturing recruited talent.
- As constituents of HU VISION 2030 it is important that students, as well as society, understand quality assurance. By introducing the essence of the Program in classes, the University's value will increase.
- Nuclear engineering is a field that should be scientifically evaluated in various forms. It is beneficial that open educational resources on nuclear engineering, such as those from other universities and Kosen technical colleges, have the chance to attract the attention of a wide audience.

3. The Number of Reappointments and Terms of Office of the External Members of the Administrative Council

The President explained, based on Material 5, the change in the number of

reappointments and the terms of office of the external members of the Administrative Council. The Council deliberated and adopted the agenda.

Then, the President stated that the revision of the Regulations would be discussed at the Administrative Council meeting to be held in January.

Matters to be Reported:

1. FY2024 Budget Request (Request to the Ministry of Finance)

The President reported, based on Materials 6 and 7, on the FY2024 budget request (to the Ministry of Finance).

2. Issuance of "Hokkaido University Integrated Report 2023"

The President reported, based on Material 8, the issuance of the Hokkaido University Integrated Report 2023.

Main Opinions:

- Regarding the decline in the percentage of students from Hokkaido, it can also be said that Hokkaido is an attractive area that draws students from all over Japan. It is requested that various perspectives be considered when evaluating the composition of enrolled students.
- In a rapidly changing society, if the selection methods for entrance examinations remain unchanged, discrepancies may arise. It is requested that the Council consider the desires of young people and how to cultivate the generation that will inherit these societal changes.
- This report has a lot of images and is easy to read.
- The decline in the percentage of students who come from Hokkaido stems from declining industries and depopulation in Hokkaido. It is important for the University to contribute to local industries and attract local interest, rather than simply lowering the difficulty level of entrance exams.
- Responding to the CDP Climate Change Questionnaire 2022, participating in the 30by30 Alliance, and being involved in activities with high international recognition is commendable.
- Although the SDGs are difficult to achieve unless they are achieved there will be no future.
- With reference to entrance exams, it is also important to evaluate potential when admitting students. As an example, the admissions office at Harvard University has strong authority to admit motivated students, even if they score low on a written test.

3. Utilization Plan of Former Hiragishi Residence Site and Application for Approval to MEXT

The President reported, based on Material 9, on the Former Hiragishi Residence Site. This site, one of the buildings used for employee housing, is a location the University has

decided to lease out and apply to MEXT for approval.

4. Establishment of the Open Innovation Hub, Enreiso

The President reported, based on Material 10, that the Faculty House "Enreiso" will be renovated and established as the Open Innovation Hub "Enreiso."

Main Opinions:

- Startups are extremely important to Hokkaido University and Japan and should be actively utilized. More specifically, it is essential to cultivate entrepreneurship, engage people who support startups, procure venture capital funding, and shift the mindset of the University's teachers.
- The Hokkaido government is also promoting startups, and we would like Hokkaido University to cooperate in this effort.
- To ensure that it does not serve as a mere hangout for students, facility management should implement various measures, including the placement of concierges and the dissemination of information. Furthermore, it is necessary to devise ways for the facility to be easily accessible to small and medium-sized enterprises.
- In addition to Enreiso, the campus also has the Enyu Gakusha Community Hall and the research facilities on North Campus. It is requested that the University consider making effective use of its assets so that people outside the University can use these facilities easily.

Any Other Business:

1. 2023 NPA Remuneration Recommendations

The President explained, based on Material 11, the 2023 NPA Remuneration Recommendations.

The President expressed his intention, after monitoring the government's future trends, to adjust University policies to comply with government policies. He requested that Council members leave the necessary actions for the revision of related work rules, etc., to the President.

Exchange of Opinions:

1. Semiconductor-Related Sites

After an explanation by Executive Director Yamaguchi, based on Material 12, on the theme of "Semiconductor-Related Sites," various opinions were exchanged.

Main Opinions:

- It is said that human resources, technology, funds, and speed are important for the success of Rapidus. Therefore, Hokkaido University needs to contribute to it by developing human resources and semiconductor-related technologies.
- The fact that the University is working in an effort with other universities and Kosen

technical colleges in Hokkaido to develop semiconductor-related sites throughout Hokkaido, is wonderful.

- It is important for Rapidus to recognize that the situation has changed from the past and a diversity perspective is now required to avoid the same path as in the 1980s and 1990s. Therefore, Hokkaido University is expected to demonstrate new methods for developing human resources and to create a new semiconductor industry.
- Rapidus is counting on Hokkaido University to supply excellent human resources. University graduates tend to find jobs outside of Hokkaido due to the scarce employment opportunities in the prefecture. Rapidus and the related companies that are expected to gather around it on a huge scale may be a source of employment.
- It is expected that a network will be formed with other universities and across Hokkaido.
- Most current semiconductor engineers are 50 years old or older. It is believed that the difficulty in securing educators in the field and the lack of popularity of the semiconductor industry among students are significant issues.
- We are optimistic for semiconductors to become a new next-generation industry in Hokkaido.
- It is highly significant that Hokkaido University has joined the research and development base, the Leading-edge Semiconductor Technology Center (LSTC), and thereby can work to continue advancements in top-level research.
- Since there is no foundation for semiconductors in Hokkaido, it is important to carefully monitor which strengths Hokkaido possesses to understand the current situation.
- Unlike Kumamoto Prefecture, which aims to mass produce general-purpose semiconductors, Rapidus aims to produce cutting-edge semiconductors through high-level technical skills. To meet this demand, a frontier spirit is essential.
- Hokkaido University should also play a role in supporting systems that will create demand for cutting-edge semiconductors.
- It is necessary to qualitatively outline the final ideal form of the next-generation semiconductor project. We believe that only Hokkaido University can present this future vision.